



2024年3月期 第2四半期 決算説明

(2023年4月1日～2023年9月30日)

2023年11月7日

エバラ食品工業株式会社

1. 2024年3月期 第2四半期決算報告

■ 取締役 栗野 裕

2. Unique 2023の進捗と 今後の成長に向けて

■ 代表取締役社長 森村 剛士

注記がない限り、表記の数値はすべて連結ベースです。

本資料の金額は単位未満切捨で表示しております。比率は小数点第1位未満四捨五入で表示しております。

本日お伝えしたいポイント

- ◆ 2024年3月期第2四半期決算は前年同期比で増収減益、原材料価格高騰に伴う売上原価の増加が減益の主要因
- ◆ 外食店の来店客数回復及び商品価格改定の効果により、業務用商品は各商品群において増収。家庭用商品は、物価上昇の影響による家庭での焼肉機会の減少、低価格品への需要シフトにより、減収
- ◆ 海外事業は、コロナ禍からの営業再開による業務用商品の売上伸長と為替影響(円安)により、増収
- ◆ 利益指標において、上期時点の年間計画進捗率は90%程度となるが、下期に想定される影響を考慮のうえ、業績見通しは据え置く

2024年3月期 第2四半期 決算報告

決算のポイント

(百万円)	2022.9	2023.9	増減	増減率
売上高	21,637	22,035	397	1.8%
売上原価	13,096	13,712	616	4.7%
販管費	6,799	6,959	159	2.3%
営業利益	1,741	1,363	▲378	▲21.7%

前年同期比 増収減益

(売上高)

食品事業：家庭用商品は減収となるも、業務用商品の売上伸長により、増収

物流事業：既存顧客との取引拡大するも、幹線輸送の需要減少により、減収

その他事業：新規顧客の獲得を進めたことにより、増収

(利益)

原材料価格高騰に伴う売上原価の増加、販管費の増加(M&Aに伴う支払手数料の増加等)

連結業績

単位：百万円

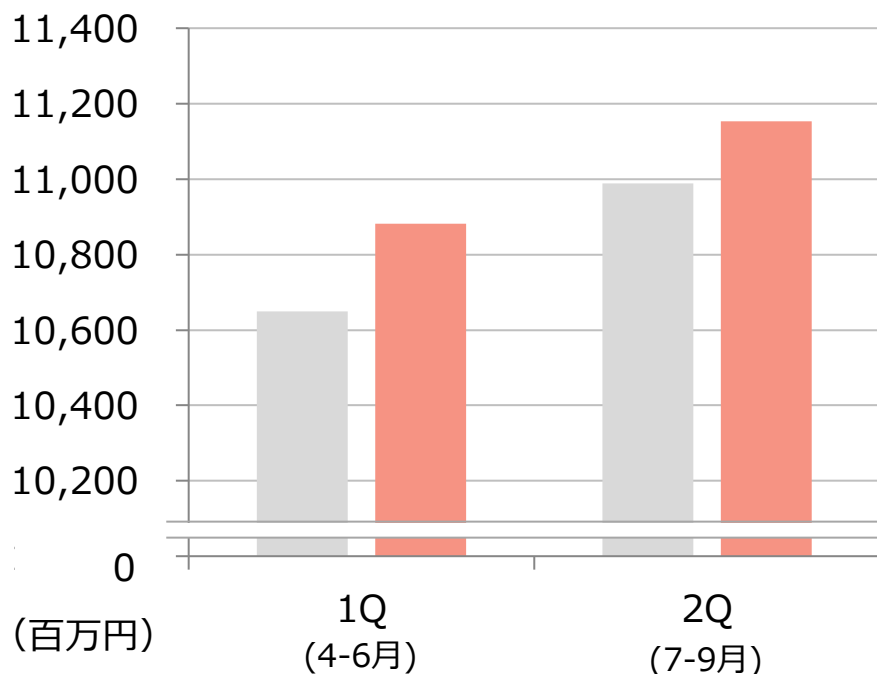
**前年同期比で増収であるが、売上原価の増加により減益
計画比は、売上高が計画通りの中、利益は年間計画の9割を達成**

(百万円)	2022.9	2023.9	2022.9対比		2024.3 計画進捗 (2023年5月15日開示)		
			増減	増減率	計画	未達額	進捗率
売上高	21,637	22,035	397	1.8%	44,000	21,964	50.1%
売上原価	13,096 60.5%	13,712 62.2%	616 +1.7pt	4.7% —	—	—	—
売上総利益	8,541 39.5%	8,322 37.8%	▲218 ▲1.7pt	▲2.6% —	—	—	—
販管費	6,799 31.4%	6,959 31.6%	159 +0.2pt	2.3% —	—	—	—
営業利益	1,741 8.0%	1,363 6.2%	▲378 ▲1.9pt	▲21.7% —	1,500 3.4%	136	90.9%
経常利益	1,904 8.8%	1,486 6.7%	▲418 ▲2.1pt	▲22.0% —	1,600 3.6%	113	92.9%
純利益	1,296 6.0%	981 4.5%	▲314 ▲1.5pt	▲24.3% —	1,000 2.3%	18	98.2%

売上高・営業利益 四半期推移

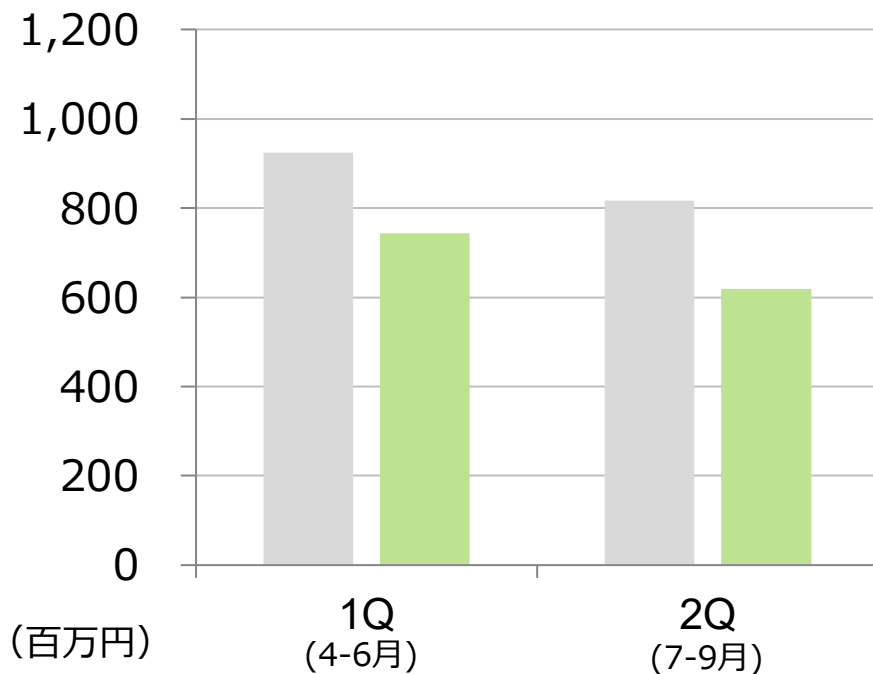
単位：百万円

売上高



	1Q (4-6月)	2Q (7-9月)
2023.9	10,881	11,154
2022.9	10,649	10,988
増減	231	166
増減率	2.2%	1.5%

営業利益



	1Q (4-6月)	2Q (7-9月)
2023.9	743	619
2022.9	924	816
増減	▲181	▲196
増減率	▲19.6%	▲24.1%

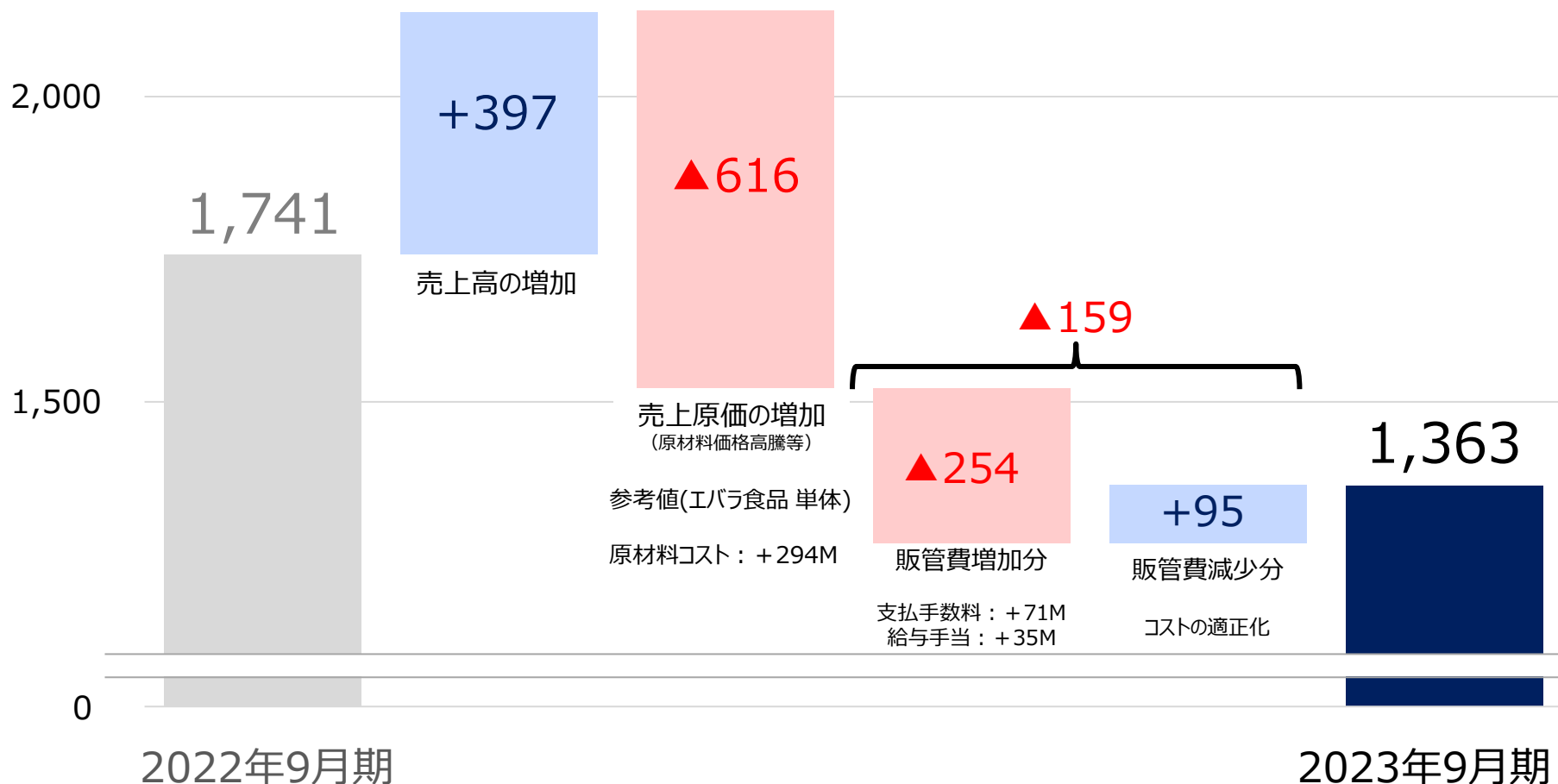
営業利益 増減分析

■ 増益要因

■ 減益要因

単位：百万円

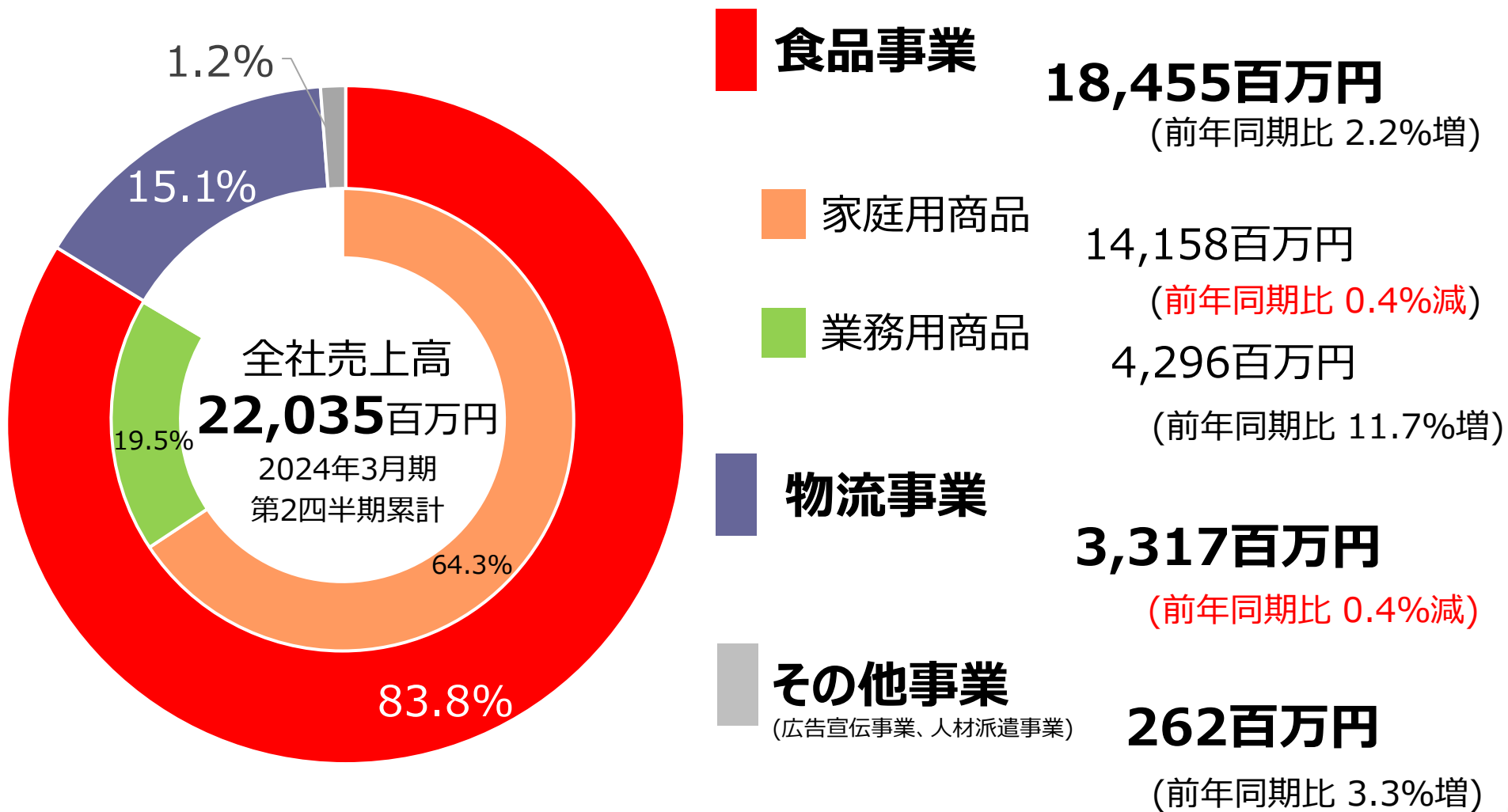
原材料価格高騰に伴う**売上原価の増加が利益減の主要因**



2024年3月期 第2四半期 決算報告

セグメント・製品区分別 売上高

セグメント・製品区分別 売上高



セグメント・製品区分別 売上高

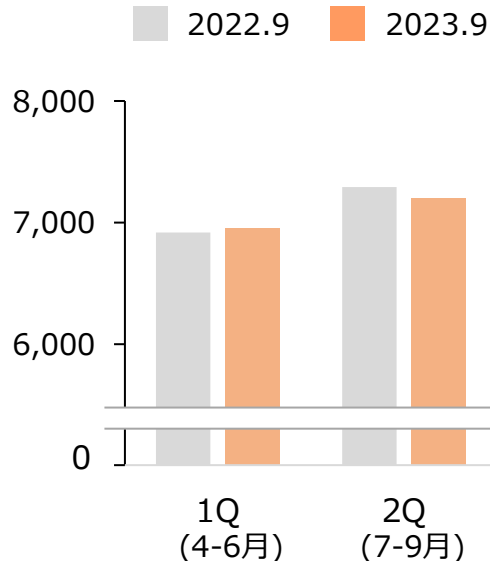
単位：百万円

食品事業（家庭用商品）

売上高増減率
前年同期比

▲0.4%

(百万円)	第2四半期 累計売上高
2023.9	14,158
2022.9	14,209



肉まわり調味料群、鍋物調味料群、 野菜まわり調味料群が減収

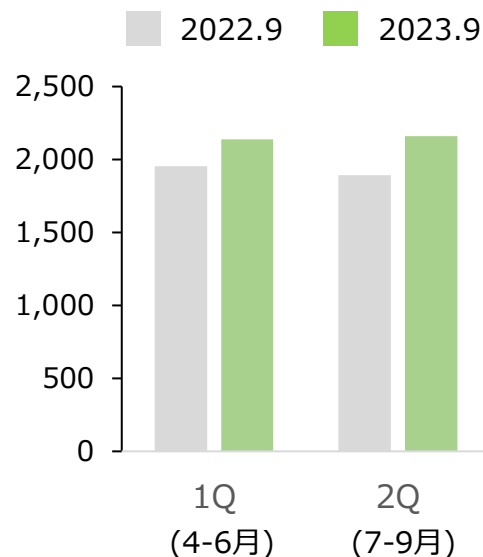
- ・物価上昇による家庭での焼肉機会の減少等により、肉まわり調味料群が減収
- ・鍋物調味料群は『すき焼のたれ』の価格改定による需要減少の影響を受け、減収
- ・その他調味料群は、『プチッとうどん』の新商品の販売好調により、増収

食品事業（業務用商品）

売上高増減率
前年同期比

+11.7%

(百万円)	第2四半期 累計売上高
2023.9	4,296
2022.9	3,845



経済活動再開に伴う人流の 増加により外食店への販売好調

- ・新商品の販売が好調(具入り麺シリーズ)
- ・気温の影響もあり、冷し麺スープの販売好調
- ・海外事業は上海の回復、タイ・マレーシアの売上拡大や為替影響により、増収

セグメント別売上高 増減分析

■ 増収要因

■ 減収要因

単位：百万円

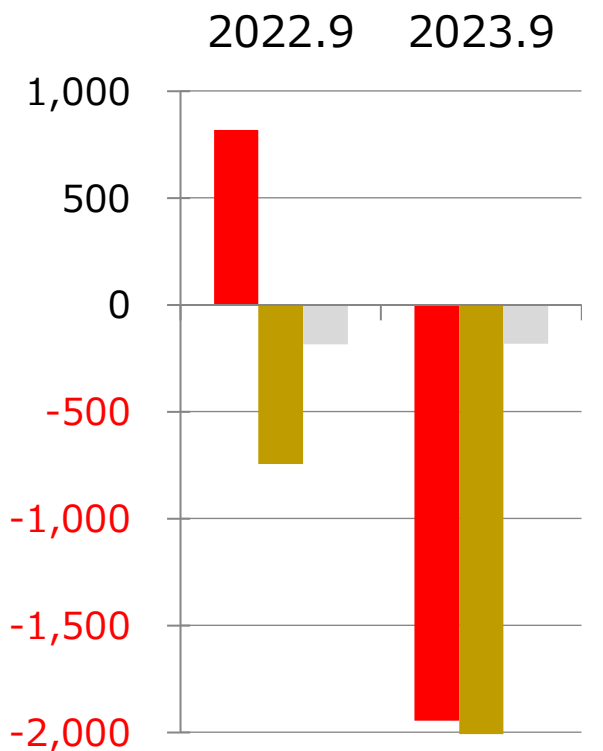


2024年3月期 第2四半期 決算報告

キャッシュ・フロー

キャッシュ・フロー

単位：百万円



	2022.9	2023.9	増減
営業キャッシュ・フロー	818	▲1,945	▲2,764
投資キャッシュ・フロー	▲744	▲2,074	▲1,330
フリーキャッシュ・フロー	74	▲4,020	▲4,094
財務キャッシュ・フロー	▲183	▲182	0
現金及び現金同等物の増加額 (▲は減少額)	▲2	▲4,086	▲4,083
現金及び現金同等物の期末残高	15,762	13,504	▲2,258

2023.9

営業CF	税金等調整前四半期純利益	1,484百万円
	減価償却費	496百万円
	売上債権の増減額※	▲4,000百万円
投資CF	有形固定資産の取得	▲1,969百万円
財務CF	配当金の支払	▲196百万円

※今期9月末日が休日となり、売上債権の入金が月ずれしたことが要因

下期に想定される影響を考慮のうえ、業績見通しは据え置き

(百万円)

2024.3

売上高 44,000

営業利益 1,500
3.4%

経常利益 1,600
3.6%

当期純利益 1,000
2.3%

下期に想定される影響

- ✓ 主原料の価格高騰による
売上原価の悪化
- ✓ 7月・9月に実施した価格改定商品の
販売数量減少
- ✓ 暖冬傾向による鍋物調味料群の
需要減少

1. 2024年3月期 決算報告

■ 取締役 栗野 裕

2. Unique 2023の進捗と 今後の成長に向けて

■ 代表取締役社長 森村 剛士

Unique 2023

(2019年4月～2024年3月)

～エバラらしさの追究～

基本戦略

I. コア事業による収益強化と 戦略事業の基盤確立

- ・事業の根幹であるコア事業においては更なる収益強化を目指す
- ・戦略事業においては当社の将来成長のための収益基盤化を目指す

II. “エバラらしく&面白い” ブランドへの成長

- ・これまで積み上げてきた“エバラらしさ”に、「冒険、反論、失敗の自由」から生まれる“独自性”＝“面白さ”を加え、エバラブランドの成長を目指す

2023年度
連結数値目標

営業利益	28億円
海外売上高	20億円
ROE	6%

最終フェーズ 2023年度 経営方針

エバラ食品グループ 基本戦略

- I. コア事業による収益強化と戦略事業の基盤確立
- II. “エバラらしく＆面白い” ブランドへの成長

I. コア事業による収益強化と戦略事業の基盤確立

重要施策

- **コア事業**
 - **原価高騰に対応した施策の実行**
 - 新商品の開発と育成
- **戦略事業**
 - 外部環境の変化に対応した収益モデルの構築
 - 機能整備及び事業基盤の確立
 - **海外売上高20億円達成への挑戦**

II. “エバラらしく＆面白い” ブランドへの成長（「いまを生きる会社」への変革）

重要施策

- Uniqueな人材の育成と確保
- 攻めの製品戦略と守りの製品戦略
- エバラブランドと顧客の接点を拡大 ～顧客との共創関係を構築する～
- サプライチェーン全体の最適化と持続可能性への対応
- 次期中計へ向けた準備と成長への投資

収益力の強化に向けて

- 価値の創造、伝達
- 基盤の整備、見直し

価値訴求

- ✓ 商品価値の再認知による新価格浸透の促進、SNSの活用



・ポーション調味料
・WAGYUMAFIA
GOLDEN BBQ
SAUCE

収益力強化 施策

経営資源の最適な配分

- ✓ 最適なコスト配分による収益改善



高付加価値

商品の開発

- ✓ 新価値創造と高付加価値商品の創出



AWESOMEET
和牛専用調味料 (3品)

商品の価格改定

- ✓ 環境の変化に応じた適正価格の形成

22年11月～現在までに
合計5回の価格改定を実施

海外事業の更なる成長に向けて

現在までの成果

- ✓ タイ、マレーシアに現地法人を展開、全6拠点で活動中
- ✓ タイに工場投資を実行、24年度以降の事業拡大に向けた基盤を整備
- ✓ シンガポールにHQ機能を集中
- ✓ 海外売上高目標20億円達成へ前進



今後、取り組んでいく課題

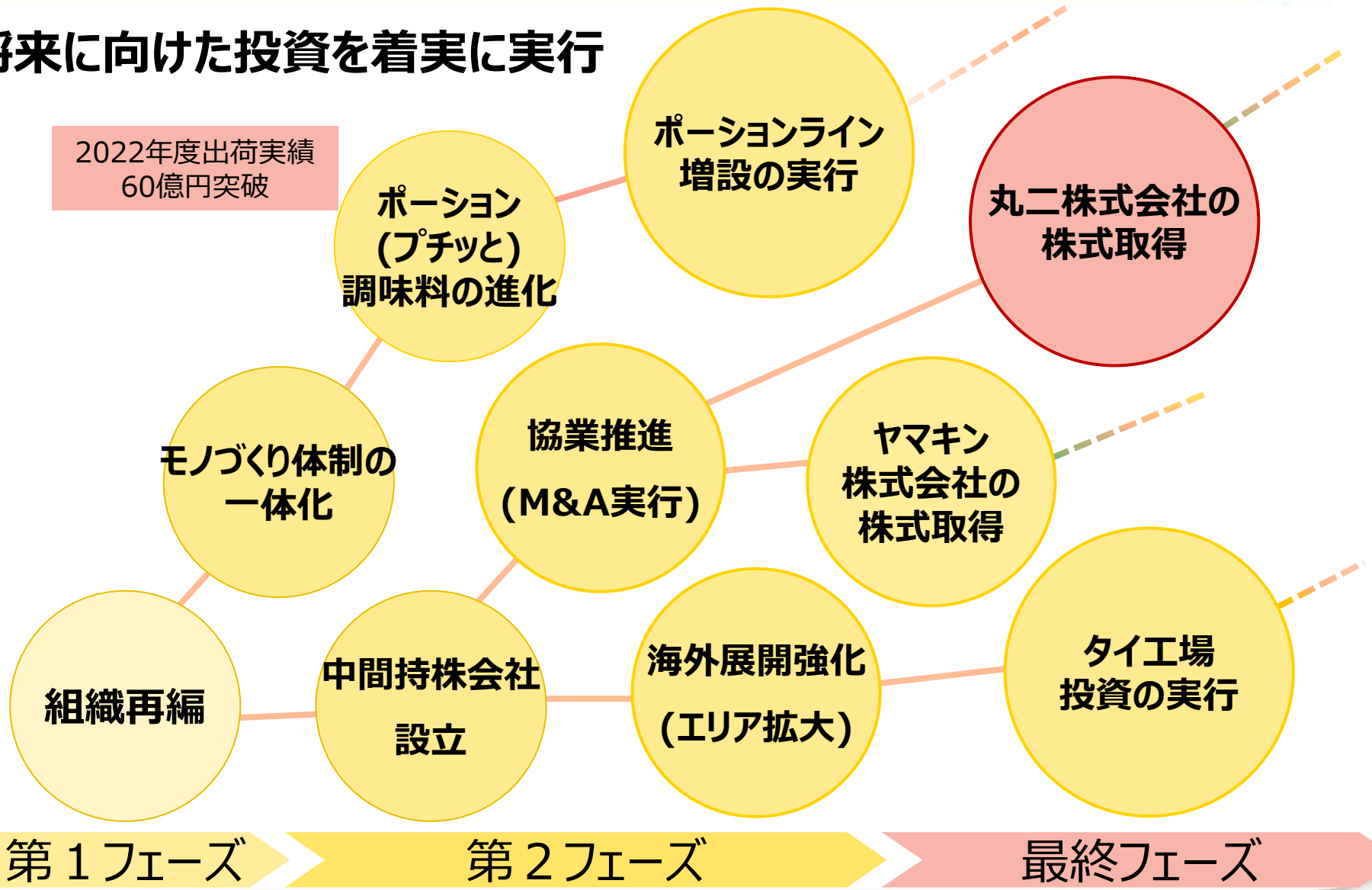
1. タイ工場の迅速な立上げと本格稼働
2. グローバル人材の獲得と育成
3. 海外における「エバラブランド」の確立



Unique 2023 最終フェーズまでの取り組み

将来に向けた投資を着実に実行

2022年度出荷実績
60億円突破



更なる成長に向けて

将来へ向けた積極的な投資を進め、
新たな挑戦と成長のサイクルが継続される企業体へ

設備 投資

✓ 市場変化に対応した製造能力の強化

投資金額：約36億円 24年度 稼働予定



ポーションライン導入（津山工場）

✓ 開発/製造ベースからの グローバルビジネス強化

投資金額：約26億円 24年度 稼働予定



タイ工場(完成イメージ図)

M&A

✓ 新技術獲得と 商品開発力の強化



株式取得(ヤマキン株式会社)



株式取得(丸二株式会社)

～ 参考資料 ～

セグメント・製品区分別 売上高

単位：百万円

(百万円)

	2022.9	2023.9	増減	増減率
● 食品事業	18,054	18,455	401	2.2%
● 家庭用商品	14,209	14,158	▲50	▲0.4%
肉まわり調味料群	6,771	6,738	▲32	▲0.5%
鍋物調味料群	3,725	3,551	▲173	▲4.7%
野菜まわり調味料群	1,936	1,912	▲23	▲1.2%
その他群	1,776	1,955	178	10.0%
● 業務用商品	3,845	4,296	451	11.7%
肉まわり調味料群	1,416	1,554	138	9.7%
スープ群	1,369	1,549	179	13.1%
その他群	1,059	1,193	133	12.6%
● 物流事業	3,329	3,317	▲11	▲0.4%
● その他事業	254	262	8	3.3%
● 合計	21,637	22,035	397	1.8%

セグメント・製品区分別 売上高

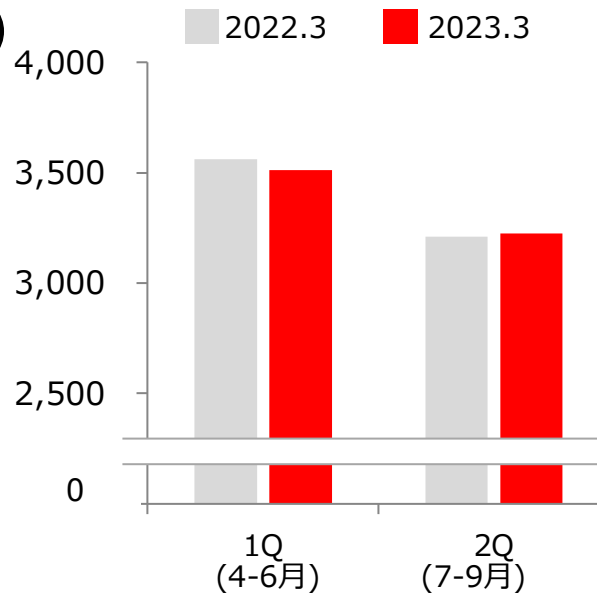
単位：百万円

食品事業（家庭用商品）

● 肉まわり調味料群

売上構成比 **30.6%**

(百万円)	第2四半期 累計売上高
2023.9	6,738
2022.9	6,771
増減	▲32



物価上昇による焼肉需要の減少、
低価格商品への需要シフトにより
減収

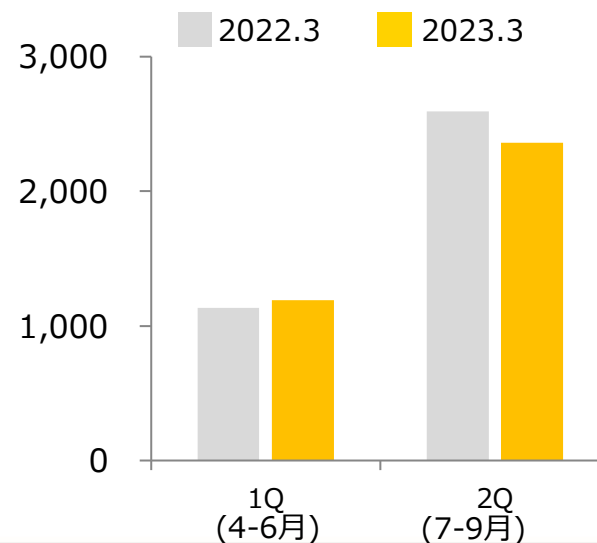
・鶏肉需要の増加に伴い「やきとりのたれ」、
「てりやきのたれ」の販売好調



● 鍋物調味料群

売上構成比 **16.1%**

(百万円)	第2四半期 累計売上高
2023.9	3,551
2022.9	3,725
増減	▲173



『プチッと鍋』が好調も、
『すき焼のたれ』が価格改定により
販売数量が低下し減収



セグメント・製品区分別 売上高

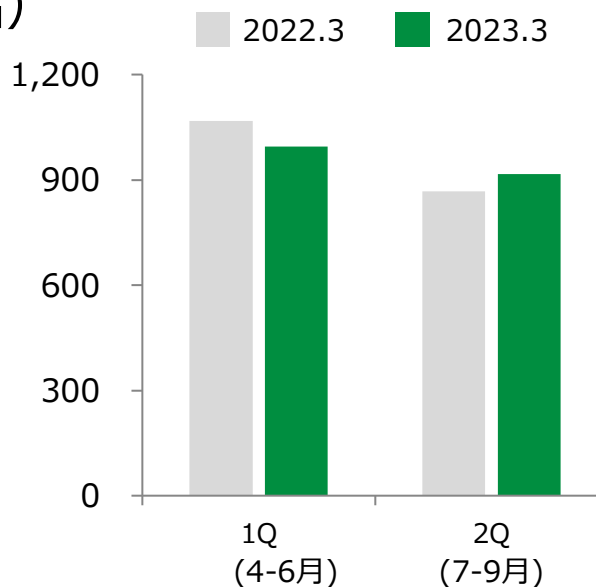
単位：百万円

食品事業（家庭用商品）

● 野菜まわり調味料群

売上構成比 **8.7%**

(百万円)	第2四半期 累計売上高
2023.9	1,912
2022.9	1,936
増減	▲23



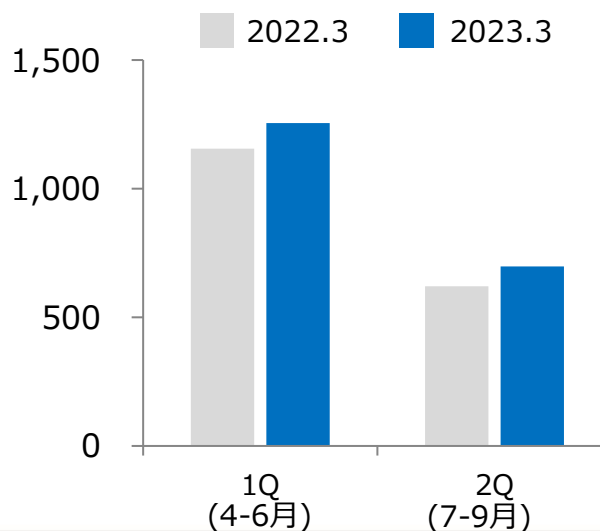
気温影響による浅漬けメニュー頻度の増加、価格改定前の買い込みにより増収



● その他群

売上構成比 **8.9%**

(百万円)	第2四半期 累計売上高
2023.9	1,955
2022.9	1,776
増減	+178



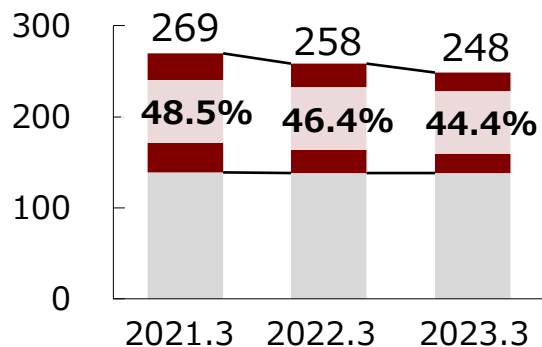
『プチッとどん』の新商品が好調に推移、改定価格定着により増収



〔参考資料〕 市場規模と当社シェア

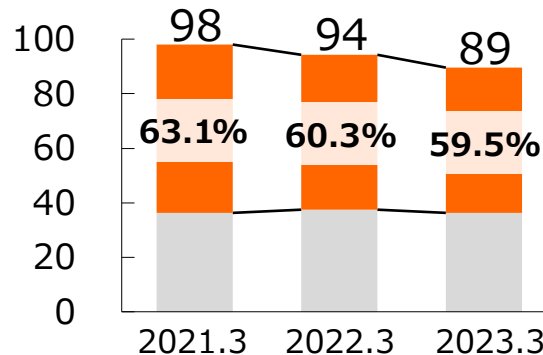
焼肉のたれ

■ 当社シェア (億円)



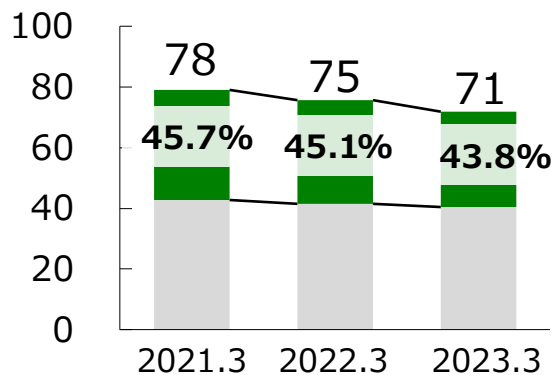
すき焼のたれ

■ 当社シェア (億円)



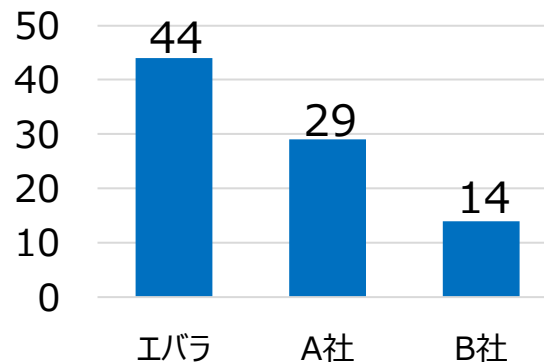
浅漬けの素

■ 当社シェア (億円)



プチッと鍋(個食鍋)

■ 個食鍋の売上比較 (億円)



〔参考資料〕 会社概要（2023年3月末時点）

商号	エバラ食品工業株式会社
本店所在地	横浜市西区みなとみらい四丁目4番5号
代表者	代表取締役社長 森村 剛士
事業内容	調味料食品の製造販売
資本金	13億8,713万円
設立	1958年（昭和33年）5月
従業員数	【連結】706名 【単体】508名
連結子会社	株式会社 エバラビジネス・マネジメント 株式会社 横浜エージェンシー & コミュニケーションズ 株式会社 エバラ物流 荏原食品（上海）有限公司 荏原食品香港有限公司 台湾荏原食品股份有限公司 EBARA SINGAPORE PTE. LTD. EBARA FOODS (THAILAND) CO., LTD. EBARA FOODS MALAYSIA SDN.BHD.
持分法適用会社	株式会社スギショーテクニカルフーズ

〔参考資料〕 沿革①

- 1958年 5月 荏原食品株式会社 設立
- 1968年 1月 『札幌ラーメンの素（味噌スープ）』発売
- 3月 『焼肉のたれ・朝鮮風』発売
- 7月 エバラ食品工業株式会社に商号変更
- 1970年 4月 テレビCM 開始
- 1978年 6月 『黄金の味』発売、テレビCMを全国一斉放映
- 1980年 7月 群馬工場（群馬県伊勢崎市）稼働
- 1984年 4月 栃木工場（栃木県さくら市）稼働
- 1 1月 宣伝部門を独立 株式会社横浜エージェンシーを設立
- 1990年 5月 株式会社エバラ物流を設立
- 1994年 4月 津山工場（岡山県津山市）稼働
- 2003年 1 1月 日本証券業協会に株式を店頭登録
- 2004年 9月 株式会社サンリバティ横浜（人材派遣業）を子会社化
- 1 2月 ジャスダック証券取引所（当時）に株式を上場
- 2005年 4月 荏原食品（上海）有限公司を設立
- 2011年 6月 チルド事業に関する合併会社 株式会社エバラCJフレッシュフーズを設立
- 2012年 1 1月 荏原食品香港有限公司を設立
- 2013年 1 1月 東京証券取引所市場第二部に市場変更
- 2014年 4月 株式会社横浜エージェンシーが株式会社サンリバティ横浜を吸収合併
- 5月 株式会社横浜エージェンシーが株式会社横浜エージェンシー&コミュニケーションズに商号変更
- 5月 本社を横浜市西区みなとみらい四丁目に移転
- 1 2月 東京証券取引所市場第一部に指定

〔参考資料〕 沿革②

2015年	3月	荏原食品香港有限公司 シンガポール支店を設立
2017年	1月	台湾荏原食品股份有限公司を設立
2018年	8月	EBARA SINGAPORE PTE. LTD.を設立
2021年	6月	EBARA FOODS (THAILAND) CO., LTD.を設立
2021年	10月	合併会社 株式会社エバラCJフレッシュフーズの全株式を譲渡
2022年	1月	株式会社スギショーテクニカルフーズの株式を取得
2022年	4月	株式会社エバラビジネス・マネジメントを設立
2022年	5月	EBARA FOODS MALAYSIA SDN.BHD.を設立
2022年	5月	ヤマキン株式会社の全株式を取得

免責事項

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化等により、実際の結果と異なる可能性があります。実際の業績等に影響を与える可能性のある重要な要因には、以下の事項があります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

- 主要市場における景気動向
- 為替動向、金利変動
- 資本市場の動向
- 価格競争の激化
- 調達環境の変化
- 提携、アライアンス、技術供与による競争関係の変化
- 公的規制、政策、税務に関するリスク
- 製品、サービスの欠陥や瑕疵に関するリスク
- 研究開発投資、設備投資、事業買収・事業再編等に関するリスク
- 自然災害や突発的事象発生に関するリスク
- 会計方針の変更

こころ、はずむ、おいしさ。

エバラ

※ この資料に記載されております業績見通し等の将来に関する記載は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

※ 本資料の金額は単位未満切捨てで表示しております。比率は小数点第1位未満四捨五入で表示しております。

● お問い合わせ先：経営企画部（TEL 045-226-0238）